

法財
人團
理
化
學
研
究
所
案
內

昭
和
八
年

院
昭
和
族
書
庫
9. 1. 15



始



目次

一、目的及事業	一頁
目的	一
研究的發表	一
工業的試驗	一
機械製作	一
二、沿革	二
設立の發端	二
國庫補助法律	二
設立	二
御下賜金	二
總裁	二
總所	二
組	二
資金	二
會員役員及職員	二
組織	二

研究室	五
事務室	五
四、寄附行為、規則及規程	六
寄附行為	六
規則	六
發明規程	六
特許實施許諾內規	六
研究生規程	六
技術練習生規程	六
五、位置、建物及設備	二六
位置	二六
建物及設備	二六
六、昭和八年度研究項目	三五
七、昭和八年度豫算	三六
八、前年度決算	三七
九、特許權	三九
附錄 役員名簿、構内建物配置圖	一

財團 理化學研究所案内

一 目的及事業

〔目的〕 理化學研究所は産業の發達を圖る爲、純正科學たる物理學及化學の研究を爲し、又同時に其應用方面の研究をも爲すのである。工業と云はず農業と云はず、理化學に基礎を措かない總ての産業は、到底堅實なる發展を遂ぐる事が出来ない、殊に人口の稠密な、工業原料其他物資の尠い我國に於ては、學問の力によつて産業の發達を圖り、國運の發展を期する外はない、當所の目的とするところは、此重大なる使命を果さんとするにある。

〔研究の發表〕 當所の研究成績は歐文學術報告 Scientific Papers of the Institute of Physical and Chemical Research 及 Supplement 並に理化學研究所彙報及同 Abstracts を發行して内外に發表する。歐文報告は第一卷より第二十一卷まで四百三十九號、彙報は第一輯より第十二輯まで百十二號を刊行して廣く一般に販賣してゐる。又場合によりては内外専門雜誌等にも掲載する。その外研究成績報告講演會によつても發表する、此講演會は既に二十三回を開催した。

〔工業的試験〕 理化學の應用方面の研究が研究室内で完成した場合は試験的作業を行ひ、工業として成立の目的及事業

見込みあるや否やを確めるのである。此試験で相當の成績を擧げた後は其性質により或は所内に製造設備を爲して作業し、或は他に其製造を托し、又は當所との報償契約の下に新會社が設立されるのである。目下工業として成立し、又は成立せんとして居るものは、可なり多い。この應用研究の成功する第一の素因は、背後に堅實なる純正科學の研究がある爲めであるから、幸に此等工業で收益を得寄附を受けた場合は、其一部は純學術方面の研究費に振り當て、一部は發明者への報酬とするのである。

〔機械製作〕 理化學の研究に用ゆる精密機械類は一般の機械類と其趣を異にし、一般工場では製作することの出来ないものが多い。當所は比較的大規模の機械製作工場を設け、所内にて用ゆる機械の製作及修繕を爲す外、他の註文に應じて研究用の特殊の機械器具類を製作して居る。目下製作して居るものは、別冊に記載せる如く未だ種類は少いが、従來海外より輸入して居た精密機械、測定機械を製作し得るのみならず、外國品よりも優秀の製作品がある。

二 沿革

〔設立の發端〕 大正二年六月、工學博士藥學博士高峰讓吉氏が米國から歸朝の際、帝國の現狀に鑑みて、國民科學研究所設立の必要ある事を高唱した。此計畫は約二千萬圓の資金を以て研究所を設立せんとするものであつたが、三十名の實業家及學者より成る調査委員會は、當時の我國財界の事情に徴し、先づ五百萬圓位の資金を

以て、差當り最も急務とする化學研究所を設立せん事を企劃し、翌大正三年三月、調査委員七名連署して貴衆兩院へ化學研究所設立に就いての請願書を提出したが、不幸議會の解散に會つて其目的を達する事が出来なかつた。

大正三年八月、歐洲大戰勃發し其餘波を受けて外國との交通は一部杜絶し、醫藥品及工業原料の輸入は梗塞或は制限せられ、我國の衛生上及産業上多大の障害を來したので、農商務省は化學工業の振興策を講ずる爲調査會を設置し、同年十一月第一回調査會を開きたるに、我國に於ける化學工業の改良發達を圖るには、化學研究所設立を以て第一の急務とし農商務大臣に建議書を提出した。

大正四年三月、第二回の化學工業調査會に於いて、偶委員中に化學のみの研究では其範圍が狭過ぎるゆへ、物理學及化學の兩方面に互る理化學研究所を設立しては如何との議起り、此議に對し各委員多數賛同し、長井長義、渡邊渡、高松豐吉、櫻井鏡二、古在山直の五博士を特別委員に擧げて、實行方法を一任する事になつた。仍つて右特別委員等は、直ちに商工局長及大學教授等と相會し、更に數回の協議を重ね設立計畫の概要、研究事項等を協定し、曩に有志の計畫せる化學研究所設立案との連絡統一を得、澁澤、菊池、山川の三男爵及中野武營氏並に前記特別委員主唱者となり、大正四年四月、設立に關する草案を主なる實業家及當路者に送付して其賛同を求め、茲に理化學研究所設立の曙光を見るに至つたのである。其當時起草された設立趣旨は次の通りである。

理化學研究所設立ノ趣旨

明治維新以降帝國ノ文明ハ長足ノ進歩ヲ爲シタリト雖、其ノ由テ來ル所ヲ察スルニ主トシテ歐米先進諸國

ノ模倣ニ勉メタルノ結果ニ外ナラズ。而シテ理化學及之ヲ應用シタル各般ノ技術ニ於テ殊ニ其ノ然ルヲ見ル。想フニ理化學ニ對スル我邦人固有ノ發明トシテハ世界ニ誇稱スベキモノ甚ダ鮮ク、學者ハ今尙歐米諸國ニ於ケル研究ノ成果ヲ追從スルニ是レ急ニシテ、自ら進ムデ是等學理ノ獨創的研究ヲ爲サムトスルモ、其ノ設備ト經費トニ缺ク所アリテ未ダ十分ニ其ノ目的ヲ達スルコトヲ得ザルノ實狀ニ在ルハ、遺憾ノ極ト言ハザルベカラズ。吾人ハ固ヨリ永ク此ノ如キ狀態ニ安ムズベキニアラズ。速ニ相當ノ研究所ヲ設立シ此種ノ研究ヲ盛ナラシメ、以テ百般工業ノ根本ヲ啓沃シテ其ノ健全ナル發達ヲ促進スルト共ニ、我國ノ自ら研究シ自ら發明シタル所ヲ以テ、久シク外國ニ負ヒ來リシ智能上ノ債務ヲ償却シ、進ムデ世界ノ文運ニ貢獻スルコトヲ期セザルベカラズ。試ニ歐米諸國ニ就テ此種ノ實例ヲ求メムカ、英國ニハ國立理學研究所アリ、佛國ニハ工藝試驗所アリ、北米合衆國ニハ國立標準局アリ、獨逸國ニハ國立理學研究所及ウイルヘルム帝化學研究所アリ、普國ニハ國立材料試驗所アリ、概ネ官公立ノ性質ヲ有ス。其ノ他富豪又ハ篤志者ノ建設セル私設ノ營造物ニ至テハ舉ゲテ數フベカラズ。加フルニ各種ノ大工場亦各其ノ試驗所又ハ研究所ヲ附設スルアリ。理化學ノ學理ト之ガ應用ニ關シテハ官民戮協シテ之ガ研究ヲ相競ハザルナシ。歐米列國ニ於ケル文運進暢ノ勢、汪然トシテ當ルベカラザルモノアルハ、其ノ由來スル所決シテ偶然ニアラズト謂フベシ。

今ヤ帝國ハ三大戰役ヲ經テ國威益々揚リ、國際上ノ位置愈々隆キヲ加ヘタリト雖、此勢力ヲ維持シテ倍々之ヲ皇張セムトスルニハ國費ヲ要スルコト彌々多カラザルヲ得ズ。然ルニ我國ハ面積甚大ナラズ、農業鑛業其

ノ他原始産業上ノ富源亦豊カナラザルヲ以テ、産業上ノ國是トシテハ一ニ智能上ノ生産ヲ潤澤ナラシメ、以テ是等ノ闕如スル所ヲ補フノ外アルベカラズ。智能上ノ生産ヤ、其ノ源泉トスル所ハ一ニ理化學ノ研究ニ在ス。研究愈々深クシテ之ガ應用益々廣キヲ得バ、源泉分流共ニ滾々トシテ盡クルコトナク、此種生産ノ増加亦隨テ旺盛ナルヲ致サム故ニ、理化學ノ研究ト之ガ應用トヲ遺憾ナカラシメムガ爲、茲ニ理化學研究所ヲ設置スルハ寔ニ刻下時勢ノ切要ニ應ズルモノナリ。

殊ニ今次歐洲ノ戰亂アリテ以來列國トノ通商交通一時ニ杜絶セラレ、若ハ甚シク制限セラレ交戰國ハ數多ノ重要品ノ輸出ヲ禁止シタル爲、我邦藥業者及工業者ハ何レモ其ノ必要トスル藥品又ハ原料ノ中之ヲ得ル能ハザルモノヲ生ジ、當時政府ハ是等ニ對シ種々策劃スル所アリシガ時局ハ實ニ幾多重要ナル教訓ヲ我邦人ニ與ヘタリ。隨テ今後醫術上ニ於テハ藥劑ノ獨立ヲ完ウスルノ必要アルコト、又工業上ニ於テハ其ノ基礎タルベキ一定ノ物質ハ之ガ自給ノ途ヲ確立セザルベカラザルコト、殊ニ國防上ニ於テ軍事材料ノ獨立ヲ確保スベキコトヲ一般ニ覺知セシメタリ。就中最モ重要ノ教訓トスベキハ智能上ニ於テ、我邦復タ從來ノ如ク常ニ歐米列國ニ倚賴スベカラザルコトヲ深く感悟セシメタルコト即チ是ナリ。

要之理化學ノ獨創的研究ヲ旺盛ナラシメ、以テ工業其他一般産業ノ發達ヲ期スルト共ニ我邦人ノ發明能力ヲ發揮シテ、智能上ノ生産力ヲ充實スルハ、我邦目下ノ急務ナルノミナラズ、永遠ニ富強ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル所以ニシテ、理化學研究所ノ設置ハ此目的ヲ達セムトスルニ外ナラズ。吾人這般之ガ設立ヲ企圖スル

ヤ、政府ハ理化學研究所國庫補助法ヲ發布シテ十年間ニ二百萬圓ノ補助金ヲ交付セラレムトシ、畏クモ、皇室ニ於テモ亦御下賜金ノ御内議アルヲ拜聞セリ。希クバ江湖ノ諸士吾等ノ意ノ在ル所ヲ諒トセラレ、奮テ此舉ニ賛同シ、十分ノ助力ヲ與ヘラレムコトヲ。

大正四年四月

斯くて理化學研究所の設立を促進せんが爲めに、大正四年六月時の總理大臣大隈伯爵は内務、大藏、文部及農商務各省の關係當局、學者及實業家を私邸に招致して設立協議會を開き、超えて大正五年一月、澁澤男爵外十一名連署して内閣總理大臣、大藏大臣及農商務大臣へ、設立計畫に對し政府の補助を仰がん事を建議した。

理化學研究所設立ニ關スル建議

世界ノ文運ニ貢獻シ以テ益々國威ヲ宣揚スルト共ニ、百般工業ノ根本ヲ啓沃シ、以テ國富ノ増進ヲ期センニハ、理化學ニ關スル獨創的研究ヲ旺盛ナラシメザルベカラズ。而カモ今次ノ歐洲戰亂ハ今後益々軍事材料ノ獨立、工業物資ノ自給ヲ企畫スルノ緊要ナルコトヲ教ヘ、吾人ヲシテ理化學研究ノ必要ヲ愈々痛切ニ覺知セシメタリ。然ルニ我國ニ在リテハ、從來此種ノ研究機關ニ於テ闕クル所アルヲ以テ、民間有志ニ於テ理化學研究所設立ノ計畫アリ。然ルニ此事業タルヤ、少ナカラザル資金ヲ要シ、民間有志ノ釀金ノミヲ以テハ到底所期ノ目的ヲ達スル事能ハザルガ故ニ、政府ハ國家事業トシテ之ヲ助成シ、理化學ノ研究ヲシテ遺憾ナカ

ラシメ、以テ國運ノ發展ヲ期スル爲メ、速カニ適當ノ措置ヲ採ラム事ヲ切望ス。

右別紙豫算概算書相添へ、謹テ及建議候也(豫算概算書省略)

大正五年一月二十一日

〔國庫補助に關する法律〕

政府に於ても豫てより設備の完全なる研究機關設置の必要を認めて居たので、前記大正五年一月の建議に基き、第三十七帝國議會に理化學を研究する公益法人に對し國庫補助を爲す法律案と、大正五年度に於て補助すべき金二十五萬圓の追加豫算とを提出せるに、兩院の協賛を得、大正五年三月六日同法律案が公布せられた。

法律第十六號

第一條 産業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ目的トスル公益法人ノ一ニ對シ政府ハ本法施行ノ日ヨリ十年ヲ限り毎年二十五萬圓以内ヲ補助スルコトヲ得
前項補助金ノ總額ハ二百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス
第二條 前條法人ノ業務ハ農商務大臣ノ監督ニ屬ス
農商務大臣ハ前條ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル法人ノ業務ヲ指揮監督シ之カ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム

此補助金に就ては大正五年度より同十一年度迄に百六十五萬圓の交付を受けたが、其後當所の研究を更に一層盛大にする爲め再び第四十六帝國議會で補助金に關する改正法律案が通過し、大正十二年度より向十ヶ年間毎年二十五萬圓宛經常費の補助を受くる事になつた。此法律案は大正十二年四月二日、左記の通り公布せられた。

法律第四十號

大正五年法律第十六號中左ノ通改正ス

第一條中「十年」ヲ「十七年」ニ「二百萬圓」ヲ「四百十五萬圓」ニ改ム

附則 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔設立〕 基礎準備略々成り、第一回、第二回と設立發起協議會を開き、澁澤男爵を創立委員長に櫻井、高松、團の三博士、和田豊治、大橋新太郎、中野武營、莊清次郎の四氏を常務委員に推舉し建築及設備に就ては物理學部を長岡半太郎、大河内正敏兩博士に、又化學部を池田菊苗、井上仁吉兩博士に囑託した。そこで委員長及常務委員は設立の趣意書、計畫書及研究所の行はんとする事業と産業上との關係を明かにした。「理化學研究所の事業と産業界」を刊行して各方面に配布し、傍ら實業家を歴訪して寄附金の勧誘に努められたところ、富豪及篤志家より多數の寄附金が集つて、大正六年三月十九日迄に其申込總額二百十八萬七千圓に達した。澁澤男爵は設立者の總代となつて東京府知事を経て農商務大臣に財團法人理化學研究所設立の許可を申請した。農商務大臣よりは

直ちに指令第三六九二號を以て許可された。實に大正六年三月二十日である。

〔御下賜金〕

當所設立の事天聽に達し、大正六年四月二十六日左記寫の通り金百萬圓御下賜の恩命に浴した。當所は大御心に副ひ奉らんが爲め、恩賜金は基金として永遠に保存する事に決議せられた。

財團法人理化學研究所

一金百萬圓 今般其ノ所設立ノ趣被聞食學術及産業御獎勵ノ思召ヲ以テ御補助トシテ大正六年以降十ヶ年間

金十萬圓宛即前記ノ通下賜候條

聖旨ヲ奉體シ勉勵努力以テ其ノ目的ヲ遂成セムコトヲ期スヘシ

大正六年四月二十六日

宮 内 省

〔總裁〕 當所の總裁には、皇族を奉戴することに寄附行爲で定められてゐる。仍て設立者一同の希望により伏見宮貞愛親王殿下を總裁として奉戴の議を其筋に願ひ出たるに、大正六年三月二十八日御承諾被爲在たる旨の通牒があつた。總裁奉戴式は大正八年十一月二十六日、帝國ホテルに殿下の台臨を仰ぎ、關係者一同參列して擧行した。其際左の令旨を賜つた。

令旨 理化學ハ文化ノ淵源富強ノ根本ニシテ之カ研究ヲ務ムルハ即チ國家發展ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル所以ナリ貞愛此ノ趣旨ヲ以テ設立セラレタル本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣ヒトスル所ニシテ職員及有志ノ協賛ニ依リ本所ノ事業ヲ遂行シ邦家ノ爲貢獻スル所アラムコトヲ庶幾フ職員及協同ノ諸員斯ノ意ヲ體シ益々

努ムル所アレ

大正八年十一月二十六日

大勳位功二級 貞 愛 親 王

總裁宮殿下には其後大正十一年十月二日當所に成らせられ、大河内所長より設立以來の經過、建築、設備並に研究の概況等を聞召され、次で各館を隈なく御檢閲あらせられ、且つ研究室主任より研究の現況並に其成績等に就て、御熱心に説明を聞召された後、研究員一同を御前に召され左の令旨を賜つた。

令旨 惟フニ理化ノ學ハ國防及産業ノ基礎ニシテ世界各國銳意之ガ研究ニ從事セサルハナシ今ヤ本所ノ建築設備モ略ホ竣リ創業以來日猶淺キニ係ラス其成績ノ見ルヘキモノアルハ予ノ深ク欣悦トスル所ナリ諸子益々奮勵努力シテ國家ノ富強ニ資セヨ

大正十一年十月二日

財團法人理化學研究所總裁大勳位功二級 貞 愛 親 王

其後伏見宮貞愛親王殿下には大正十二年二月四日薨去あらせられ、新に

伏見宮博恭王殿下を總裁として奉戴の儀が允許あらせられたので、大正十二年十一月二十日、殿下の台臨を當所に仰ぎ奉戴式を舉行し、博恭王殿下より左の令旨を賜つた。

令旨 惟フニ理化學ノ研究ハ文化ノ開發ヲ促シ富強ヲ増進スル所以ニシテ國運發展ノ基礎實ニ此ニ存ス今

予先考ノ後ヲ承ケテ新ニ本所ノ總裁ニ推サレタルハ深ク欣幸トスル所ナリ冀クハ職員及協賛諸員ノ補翼ニ依リ益々本所ノ事業ヲ擴充シテ紹述ノ實績ヲ學ケンコトヲ諸子ヨク斯ノ意ヲ體シテ國家ニ貢獻スル所アレ

大正十二年十一月二十日

財團法人理化學研究所總裁大勳位功四級 博 恭 王

〔所長〕 大正六年設立當時の所長は、理學博士男爵菊池大麓氏であつたが、就任後間もなく急病にて卒去され、同年十月工學博士男爵古市公威氏が其後を繼がれた。男爵は設立匆々非常に多忙の際、熱心其職に盡されたが、劇務の爲健康を害せられ大正十年九月辭任された爲、爾來工學博士子爵大河内正敏氏が就任し今日に及んで居る。

三 組 織

〔資金〕 當所は御下賜金、政府補助金及法人竝に個人の寄附金より成る財團法人で、商工省の管轄に屬して居る、昭和八年三月末日現在資金總額は金五百九拾萬六千七百九拾參圓で、今まで敷地、建物及諸設備に投ぜられた額は金五百四拾貳萬六千九百九拾八圓四拾五錢である。

〔會員役員及職員〕 昭和八年八月現在、法人組織による會員は百八十六名で、役員は總裁、副總裁顧問各一名、理事十三名、監事五名、評議員六十四名である。(附録役員名簿參照)

組 織

理化學研究所案内

職員は六百七十六名で、夫れを大別すると

研究に直接従事する者

計三百六十三名

内譯 主任研究員

二十七名

研究員

二十三名

助手

六十八名

嘱託

八十四名

研究生

百十七名

雇以下

四十四名

研究の介助を爲す者

技師以下百二十名

工作實習中の者

見習九名

試験作業に従事する者

技師以下百十三名

事務に従事する者

主事一名及書記以下十名

雑役に従事する者

雇以下六十名

〔研究室〕 研究室は夫々主任研究員の姓名を冠し、現在飯盛、磯部、石川、石田、井口、飯高、西、西川、仁科、本多、大河内、和田、片山、高嶺、長岡、野口、久保田、眞島(利)、眞島(正)、深川、寺田、喜多、木村木下、瀬藤、鈴木(庸)、鈴木(梅)、の二十七室ある。尤も此等研究室全部が當所内にあるのではなく、便宜上主任研究員の所在地に置いてある。即ち石川、本多の兩研究室は東北帝國大學總長の許可の下に同大學内に、又片山研究室は同様東京帝國大學内に、喜多、木村兩研究室は京都帝國大學内に又眞島(利)研究室の一部は大阪帝國大學及び東北帝國大學内に在る。

而して各研究室は夫々室専有の豫算を持ち、經費の使途は主任研究員に一任されて居て、室の設備に多くを支出するも、又人件費に多くを使用するもそれは全く自由である。猶研究室には左の六係が配屬して居る。

1 倉庫係

- 一、研究用貯藏物品の配給に關する事項
- 二、研究室用物品臺帳及出納帳簿の記入、整理に關する事項
- 三、研究室の取締並に營繕に關する事項

此倉庫係は研究室で日常に使用する消耗品、各種藥品、其他最も多く使ふ雜貨をも貯藏し、各研究室及所内各部へ一定の價格で供給し、割當てられた豫算から差引いてゐる。

2 圖書係

- 一、圖書の保管、整理に關する事項
- 二、圖書の購入に關する事項
- 三、圖書閱覽に關する事項
- 四、製本に關する事項

3 研究成績發表係 (通稱、編纂係)

- 一、研究成績報告文書刊行並に同發賣頒布及講演に關する事項

組 織

理化學研究所案内

一四

當所研究員の中から選舉せられた研究成績發表委員は歐文報告及邦文彙報其他一切の原稿の整理、出版手續及内外國各方面への出版物の寄贈或は交換に就いて協議を開く等、當所から刊行する出版物一切の仕事をする事になつて居る。

4 工 作 係

- 一、機械器具の製作、並に修繕に關する事項
- 二、機械器具及材料の購入、並に保管に關する事項

工作係は設計製圖、機械仕上、精密機械、調整、硝子、レンズ、木工、鑄工、鍛工の諸部から成つて居て、技師以下百四名居る。研究室から註文の諸機械器具の製作、並に修理等は勿論研究所外よりの註文に對しても出来るだけ應じて居る。

5 電 氣 係

- 一、動力、電燈、電話其他電氣機に關する事項

6 機 械 係

- 一、汽機、汽罐、液體空氣、壓搾瓦斯其他に關する事項

〔事務室〕 一般事務は左の三係で分掌して居る。

1 庶 務 係

- 一、所印及職印の保管
 - 二、役員、會員及職員の進退に關する事項
 - 三、役員會議に關する事項
 - 四、機密に關する事項
 - 五、建設工事に關する事項
 - 六、土地建物及樹木の管理に關する事項
 - 七、事務室用物品の購入保管に關する事項
 - 八、構内取締に關する事項
 - 九、電話交換に關する事項
 - 一〇、製作品の販賣に關する事項
 - 二、前項の外他係に屬せざる事項
- 2 會 計 係
- 一、豫算決算に關する事項
 - 二、御下賜金、政府補助金及一般寄附金に關する事項
 - 三、現金、有價證券の出納保管に關する事項

組 織

一五

- 四、現金、有價證券出納諸帳簿及證據書類の整理に關する事項
- 五、取引銀行に關する事項

3 炊 事 係

- 一、所員の賄に關する事項
- 二、庖厨器具類の購入並に保管に關する事項
- 三、食料品の購買、出納並に帳簿整理に關する事項

四 寄附行爲、規則及規程

〔寄附行爲〕

第一章 目的及事業

- 第一條 本所ハ産業ノ發達ニ資スル爲理化學ヲ研究シ其ノ成績ノ應用ヲ圖ルコトヲ以テ目的トス
- 第二條 本所ハ前條ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設ヲ爲スノ外左ノ事業ヲ行フ
 - 一、一定ノ事項ヲ指定シテ研究ヲ依頼シ又ハ本所ノ設備ノ利用ヲ希望スル者アルトキハ其ノ需ニ應スルコト
 - 二、研究及發明ヲ獎勵スヘキ施設ヲ爲スコト

三、研究及調査ノ成績ヲ公ニスル爲印刷物ヲ刊行シ又ハ講話ヲ爲スコト

第二章 名稱及事務所

第三條 本所ハ財團法人理化學研究所ト稱ス

第四條 本所ハ事務所ヲ東京市本郷區駒込上富士前町三十一番地ニ置ク

第三章 會員及資産

第五條 本所ノ事業ヲ翼賛シテ金錢又ハ物件ヲ寄附シタル者ヲ會員ト稱ス

第六條 本所設立ノ日ニ於ケル資産ハ左ノ如シ

- 一、現金拾萬五千圓也
- 二、設立初年目ニ於ケル寄附年賦金五拾萬五千七百圓也
- 三、設立二年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬五千七百圓也
- 四、設立三年目ニ於ケル寄附年賦金四拾五萬四千六百圓也
- 五、設立四年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也
- 六、設立五年目ニ於ケル寄附年賦金參拾參萬參千圓也

第七條 本所ノ資産ハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ其ノ一部ヲ基金ニ充ツ

基金ハ他ノ資産ト區別シテ之ヲ管理保存スルモノトス但シ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ之ヲ處分スルコト

寄附行爲、規則及規程

ヲ得

第八條 本所ノ資産ハ國債證券又ハ確實ナル有價證券ヲ買入レ若ハ郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預入レ利殖ヲ圖ルモノトス

第九條 本所ノ經費ハ基金ノ利息及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第十條 本所ノ豫算ハ毎年度評議員會ノ議決ヲ經テ決算ハ評議員會ノ認定ヲ經テ總裁ニ上申スルモノトス

第十一條 本所ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四章 總裁、副總裁及顧問

第十二條 本所ニ總裁一人及副總裁二人ヲ置ク

總裁ニハ皇族ヲ奉戴ス

副總裁ハ總裁之ヲ委囑ス

副總裁ハ總裁ヲ補翼ス

第十三條 總裁ノ諮詢ニ應スル爲顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ總裁之ヲ委囑ス

第五章 役員

第十四條 本所ニ理事二十人以内監事十人以内ヲ置ク

理事及監事ハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

前項ニ依リ選任セラレタル理事ノ就任スルニ至ル迄ノ間ハ設立者ヲ以テ理事トシ

第十五條 本所ニ所長一人ヲ置ク

所長ハ理事中ヨリ總裁之ヲ委囑ス

所長ハ本所ヲ代表ス

所長ハ理事過半数ノ同意ニ依リ委任ヲ受ケタル事務ニ付之ヲ專行ス

所長故障アルトキハ總裁ノ指名シタル理事代テ其ノ職務ヲ行フ

第十六條 理事及監事ノ任期ハ三年トス但シ再任スルコトヲ妨ケス

補缺役員ノ任期ハ前任ノ者ノ殘任期間トス

第十七條 本所ニ評議員百五十人以内ヲ置ク

設立當初ノ評議員ハ設立者ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

評議員ノ補充ヲ要スルトキハ評議員會ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

第六章 補則

第十八條 本寄附行爲ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十九條 將來本寄附行爲ノ條項ヲ變更セムトスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申シ主務官廳ノ認可ヲ

寄附行爲、規則及規程

受クルコトヲ要ス

前項評議員會ノ議決ハ事務所ヲ變更スル場合ヲ除クノ外評議員總數三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス
〔財團法人理化學研究所規則〕

第一章 評議員會

第一條 定時評議員會ハ毎年一月及六月所長之ヲ招集ス但シ所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ招集スルコトヲ得

評議員五分ノ一以上又ハ監事ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ所長ハ臨時評議員會ヲ開クコトヲ要ス

第二條 評議員會ノ議長ハ評議員會ニ於テ毎回評議員中ヨリ之ヲ互選スルモノトス

第三條 評議員會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ其ノ議決ヲ以テ指名選舉法ニ依ルコトヲ得

第四條 評議員會ハ評議員總數ノ五分ノ一以上出席スルニ非レハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一事項ニ付再度招集スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

評議員會ニ出席セサル評議員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ評議員ヲ以テ代理人ト爲スコトヲ得

第五條 評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六條 評議員會ニ於ケル議事ノ經過ハ議事要録ニ登錄シ議長及出席評議員二名以上之ニ署名スルモノトス

第二章 理事會

第七條 本所ノ事務ハ理事會過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ行フ但シ理事會過半數ノ同意ヲ以テ其ノ事務ノ一部ヲ所長ニ委任スルコトヲ得

第八條 所長ハ本所ノ事務ニ付協議ヲ爲ス必要ノ都度理事會ヲ招集スルコトヲ得

第九條 理事會ニ於テ出席者過半數ニ達セサルトキハ所長ハ書面ヲ以テ缺席者ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第十條 理事會ノ議長ハ所長ヲ以テ之ニ充ツ

第十一條 第六條ノ規定ハ理事會ニ之ヲ準用ス

第三章 職員

第十二條 本所ニ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク

研究員	若干人	助手	若干人
技師	若干人	技手	若干人
主事	一人	書記	若干人
雇	若干人		

第十三條 所長ハ所務ヲ統理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十四條 研究員ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ總裁之ヲ委囑ス

寄附行爲、規則及規程

技師及主事ハ所長ノ推薦ニ依リ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ任免ス
助手、技手、書記及雇ハ所長之ヲ任免ス

第十五條 所長ハ業務ノ都合ニ依リ囑託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

第四章 雜 則

第十六條 副總裁、顧問及監事ハ理事會及評議員會ニ列席シ意見アルトキハ之ヲ陳述スルコトヲ得

第十七條 評議員會ニ報告スル決算書ニハ監事ノ意見ヲ添フヘシ

第十八條 所員ノ給與ニ關スル規定其ノ他本所ノ業務執行ニ必要ナル規定ハ理事會ノ議ヲ經テ之ヲ定メ評議員會ニ報告ス

第十九條 將來本規則ノ條項ヲ變更セムトスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經テ總裁ニ上申スルコトヲ要ス

〔財團法人理化學研究所職員ノ爲シタル發明實用新案及意匠ニ關スル規程〕

第一條 本規程ニ於テ職員ト稱スルハ財團法人理化學研究所規則第十二條及第十五條ニ規定スル職員ヲ謂フ

第二條 職員カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所之レヲ承繼ス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

第三條 前條ノ發明ニ關スル特許權ハ發明者ノ希望ニ因リ本所ノ承諾アリタルトキハ本所ト發明者トノ共有ト爲スコトヲ得

第四條 前條ノ規定ニ依リ特許權カ本所ト發明者トノ共有ニ係ル場合ニ於テハ特許料ハ本所ノ負擔トス但シ發明者カ本所ノ同意ヲ得テ持分ヲ讓渡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 本所カ第二條ノ規定ニ依リ特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ發明者ニ支拂フヘキ補償金ハ特許發明ノ實施ニ因リ利益金、特許發明ノ實施ノ許諾ニ對シテ支拂ヲ受ケタル報酬金、法律ノ規定ニ依リ實施權ヲ有スル者ヨリ支拂ヲ受ケタル補償金、特許ヲ受クルノ權利又ハ特許權ノ讓渡ニ因リ對價トシテ支拂ヲ受ケタル金額及特許權ノ制限、收用又ハ取消ニ因リ政府ヨリ補償金トシテ支拂ヲ受ケタル金額ノ百分ノ五十トス但シ發明ニ關スル事情ヲ斟酌シ百分ノ十ノ範圍内ニ於テ本所ノ認定ニ依リ之レヲ増減スルコトヲ得

數人ノ職員カ共同シテ發明ヲ爲シタルトキハ各發明者ニ支拂フヘキ補償金ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ各發明者ノ受クヘキ補償金額ハ本所ノ定ムル處ニ依ル

第三條ノ規定ニ依リ本所ト發明者ト特許權ヲ共有スル場合ニ於テハ發明者ノ持分ヲ以テ前項ノ補償金ト看做ス特許權取得後五年ヲ經過スルモ第一項ノ補償金ヲ支拂フコト能ハサルトキハ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第六條 國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ依託ヲ受ケタル研究生カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之レヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトス

第七條 職員カ本所ニ於テ職務上特許法第三條第二號乃至第三號ノ事項ニ付特許ヲ受クルコトヲ得サル發明ヲ

爲シタルトキハ本所ハ物ノ發明ニ在リテハ其ノ物ヲ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有シ方法ノ發明ニ在リテハ其ノ方法ヲ使用シ及其方法ニ依リテ製作シタル物ヲ使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

前項ノ場合ニ於テ本所ハ發明者ト協議シ相當ノ補償金ヲ支拂フモノトス

第八條 第二條ノ規定ニ依リ本所カ職員ノ爲シタル發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ承繼シタル場合ニ於テ本所カ其發明ニ付特許ノ出願ヲ爲ササルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第九條 第二條ノ場合ニ於ケル本所ノ特許出願前又ハ前二條ノ場合ニ於テ發明者カ自ラ發明ヲ實施シ又ハ他人

ニ發明ノ内容ヲ知ラシメタルトキハ本所ニ對シテ之レニ因リテ生シタル一切ノ損害ヲ賠償スヘキモノトス

第十條 本規程ハ實用新案若ハ意匠ノ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權若ハ意匠權ニ付之レヲ準用ス

(參照)

規則第十二條 本所ハ所長ノ外左ノ職員ヲ置ク

研究員、助手、技師、技手、主事、書記、雇

規則第十五條 所長ハ業務ノ都合ニ依リ囑託員又ハ研究生ヲ置クコトヲ得

〔特許權實施許諾ニ對スル報酬條件ノ一例〕

本所ノ所有する特許權を實施して工業を興す場合に其許諾に對する報酬條件は大體左記の如きものである(便宜上財團法人理化學研究所を甲とし、特許權實施の許諾を受ける者を乙とする)。

甲ノ有スル特許發明ノ實施ノ許諾ヲ受ケタル者(乙)ハ右事業ノ毎決算期ニ於テ其總益金ヨリ總損金及甲ノ同意ヲ得テ定メタル固定資産ニ對スル減價償却金ヲ控除シタル殘額ヲ利益金トシ其ノ内ヨリ左記規定ニ依リ甲ニ對シ報酬金ヲ支拂フモノトス

一、前項ノ利益金ヨリ法定積立金ヲ積立テ且百分ノ拾以内ノ役員賞與金ヲ支出シタル殘額ハ投下資本金額ニ對シ年壹割ノ割合ニ至ル迄之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

二、前項ノ利益配當ヲナシタル後剩餘アルトキハ其剩餘ノ二分ノ一ヲ報酬金トシテ甲ニ支拂ヒ殘餘ハ乙ニ於テ適宜之ヲ處分ス

〔財團法人理化學研究所ト研究依頼者又ハ研究生依託者トノ間ニ於ケル

特許發明實用新案ノ實施許諾ニ關スル契約規程內規〕

一、本所ノ會員ハ本所ノ目的ニ屬スル一定ノ事項ニ付費用ヲ負擔シテ其ノ研究ヲ依頼スルコトヲ得

二、本所カ前項ノ依頼ニ應ジ研究ヲ爲ス場合ニ於テ之レニ從事スル本所ノ職員カ發明ヲ爲シタルトキハ特許ヲ受クルノ權利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

三、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタルトキハ本所ハ研究依頼者ニ之レヲ通知スルモノトス

四、研究依頼者カ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ前項ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ求メタルトキハ本所ハ實施期間實施區域實施方法報酬額其ノ他ノ實施ノ條件ヲ協議シ、協議調ヒタルトキハ優先シテ之レニ實施ヲ許

- 諸シ他人ニ其ノ實施ヲ許諾セサルモノトス
- 五、前項ノ規定ニ依リ研究依頼者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾シタルトキハ其ノ限度ニ於テ本所ハ自ラ特許發明ノ實施ヲ爲ササルモノトス
- 六、第四項ノ規定ニ依リ本所カ研究依頼者ニ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究依頼者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ特許發明ノ實施ニ依リ得タル利益金ノ百分ノ三十以上ニ相當スル金額トス
- 七、前項利益金ハ特許發明實施ノ爲投下セラレタル資本金ノ百分ノ十ヲ控除シタルモノヲ謂フ
- 八、第六項ノ報酬金額ハ實施權者ニ營業年度ノ定メアル場合ニ於テハ營業年度ニ依リテ計算シ營業年度ノ末日ヨリ三十日以内ニ營業年度ノ定メナキトキハ曆年ニ依リテ之レヲ計算シ翌年一月三十一日迄ニ本所ニ支拂フヘキモノトス
- 九、第四項ノ規定ニ依リ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ受ケタル者カ許諾ノ日ヨリ一年以内ニ其ノ實施ヲ爲ササルトキ、其ノ實施ヲ繼續シテ六月以上中止シタルトキ、其ノ實施ニ付充分ノ努力若ハ施設ヲ爲ササルモノト本所ニ於テ認めタルトキ又ハ本所ニ支拂フヘキ報酬金ノ支拂ヲ遲滞シ其ノ他ノ實施ノ條件ニ違背シタルトキハ本所ハ特許發明ノ實施ノ許諾ヲ取消シ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス
- 十、財團法人理化學研究所研究生規程ニ依リ國其ノ他ノ法人又ハ個人ヨリ依託ヲ受ケタル研究生カ本所ニ於テ職務上發明ヲ爲シタルトキハ之レヲ指導スル主任ノ研究員ト共同シテ發明ヲ爲シタルモノトシ特許ヲ受クルノ權

利ハ本所ニ於テ之レヲ承繼スルモノトス外國ニ於テ特許ヲ受クルノ權利ニ付亦同シ

十一、本所カ前項ノ發明ニ付特許ヲ受ケタル場合ニ於ケル研究生依託者ニ對スル實施權ノ許諾ニ關スル條件及許諾ノ取消ニ付テハ第四項第五項第八項及第九項ノ例ニ依ル

十二、前項ノ規定ニ依リ本所カ特許發明ノ實施ヲ許諾スル場合ニ於テ研究生依託者カ本所ニ支拂フヘキ報酬額ハ研究生ヲ指導シタル主任研究員ノ意見ヲ聽キ本所ト研究生依託者ト協議シテ之レヲ定ム

十三、實用新案ノ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ニ付テモ本内規ノ例ニ依ル

〔財團法人理化學研究所研究生規程〕

- 第一條 研究生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニ依リ研究員ノ指導ノ下ニ研究ニ従事スルモノトス
- 第二條 研究生ハ専門ノ素養アル者ニシテ研究室主任ノ推薦ニ依リ所長之ヲ任用ス
- 第三條 研究生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ
- 第四條 研究生ノ研究ニ要スル諸費ハ依託者ノ負擔トス但シ時宜ニ依リ本所之ヲ支辨スルコトアルヘシ
- 第五條 研究生ノ研究期間ハ二ケ年以内トス但シ研究ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ研究室主任ノ許可ヲ得テ延期スルコトヲ得
- 第六條 研究生疾病其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス
- 第七條 研究生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

寄附行爲、規則及規程

〔財團法人理化學研究所工場技術練習生規程〕

- 第一條 練習生ハ官廳公私團體若ハ個人ノ依託ニヨリ工作係指導ノ下ニ實習ニ従事スルモノトス
- 第二條 練習生ハ相當ノ經歷アル者若ハ試験ノ上適當ト認メタル者ノ内ヨリ所長之ヲ任用ス
- 第三條 練習生ハ無給トス但シ手當ヲ支給スルコトアルヘシ
- 第四條 練習生ノ實習ニ要スル諸費ハ本所之ヲ支辨ス但シ時宜ニ依リ依託者ノ負擔トスルコトアルヘシ
- 第五條 練習生ノ實習期間ハ二ケ年以内トス但シ實習ヲ繼續セムトスル場合ニ於テハ工作係ノ許可ヲ得テ延期スル事ヲ得
- 第六條 練習生疾病其ノ他ノ事項ニ依リ作業ノ見込ナキトキハ所長之ヲ免ス
- 第七條 練習生退所セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨所長ニ出願スヘシ

五 位置、建物及設備

昭和八年三月末日現在

〔位置〕 當所は本郷、小石川兩區の最北部の境界に跨つてゐて、敷地一萬二千坪、其購入價格は金四拾參萬壹千參百拾圓八拾八錢である。即ち

本郷區駒込上富士前町 七千七百六十六坪
小石川區駕籠町 四千二百三十四坪

〔建物及設備〕 當所の建物及設備は、大正七年度工事に着手し、大正十一年度に完成の豫定であつたが、工事着手後建設諸材料及工賃の暴騰したのと、寄附金の収入が豫期の通りにならなかつたので、己むを得ず緊急を要するものから逐次施工したるが爲め、豫定の期間内に完成するに至らず、大正十四年度内に於て漸く豫定計畫の工事を終了した。而して研究の進むと共に従来の研究設備の擴張を必要とするもの、或は新に半工業的實驗設備を爲す必要を生じた爲め、建物設備が追加されて、創立以來昭和七年度末迄に投じた建設費は、敷地費を併せて總額金五百四拾貳萬六千九百九拾八圓四拾五錢に達した、其明細は左の通りである。

建物の名稱は、正門を入り向つて左側を奇數、右側を偶數として、凡て番號を附けて居る。

- 第一號館 飯盛、磯部、和田、久保田、眞島(利)、鈴木(庸)、鈴木(梅)の七研究室、外に物品倉庫係、天秤室、燃燒室、引火性液蒸溜室、送風機室
- 第二號館 石田、磯部、西川、大河内、高嶺、長岡、眞島(正)、木下、寺田の九研究室、恆溫室、材料研究室、圖書室、講演室、事務室、食堂
- 第三號館 石田、西川、高嶺、木下、長岡、仁科の六研究室
- 第四號館 西、瀬藤の二研究室、電力室及電氣爐室
- 第五號館 各種交流流發電機室、液體空氣及酸素の製造場
- 第六及八號館 機械工場、木工場、硝子工場、精密機械室、設計製圖室、內燃機關室、調整室

位置、建物及設備

理化學研究所案内

附屬 鑄工及鍛工場

- 第七號館 酸化皮膜等の研究及作業場
 - 第九號館 酸化皮膜、營養素等の研究及作業場
 - 第十一號館 有機酸、回收ゴム等の研究及作業場
 - 第十三、十五、十七號館 ヴィタミンAに關する研究及作業場
 - 第十九號館 合成酒及アルコール蒸溜室
- 是等建物の延坪數と建築費及設備費は左の通りである。

建物明細書

昭和八年三月末日現在

名	稱	構造	延坪數	價額	備考
第一	號館	煉瓦三階	一、一二三	五七〇、一七二・二四	化學研究
第二	號館	鐵筋四階	一、一五一	五〇三、二九三・九三	物理研究
第三	號館	鐵筋二階	三三二	一一一、三四八・一五	物理研究
第四	號館	鐵筋二階	三二五	一〇八、〇三五・八五	物理研究

第五	號館	煉瓦平家	一六七	六二、二二七・四九	電力酸素
第六	號館	鐵筋二階	四一一	一〇六、〇七〇・四五	機械製作
第七	號館	鐵骨平家	一〇〇	一九、一〇二・四四	實驗室
第八	號館	鐵骨平家	一一三	一六、五〇三・九五	機械製作
第九	號館	鐵骨平家	一二〇	一六、一二三・七五	實驗室
第十	號館	鐵骨平家	九六	九、三六六・八〇	實驗室
第十一	號館	鐵骨平家	一三〇	三〇、九二九・八九	實驗室
第十三	號館	鐵骨平家	七二	一四、八六九・八五	ヴィタミン動物試驗室
第十五	號館	鐵骨平家	六〇	八、五三三・〇六	ヴィタミンA製造
第十七	號館	鐵骨平家	一一四	一六、七一九・五一	ヴィタミンA製造
第十九	號館	鐵骨二階	三四〇	六一、九三七・五二	酒製造
第二十一	號館	鐵骨平家	八〇	一二、七七五・七〇	酒貯藏庫
VA	研究室	木造平家	二七	四、九七八・二四	

位置、建物及設備

給水ポンプ室	電気 爐 室	久保田研究室(柏崎)	反轉現像藥工場	ネオトダム工場	毒瓦斯 室	酒 實 驗 室	感光液、ウルトラジン工場	コランダム工場	テトラリン工場(柏崎)	材料 置 場	材料 置 場	ウ A 調 劑 室
煉瓦地階	木造平家	木造平家	木造平家	木造平家	木造平家	木造平家	木造平家	木造平家	木造平家	鐵骨平家	鐵骨平家	木造平家
五一	三〇	一六	六二	八五	三	一八	五一	八九	四一〇	三〇	五七	三六
		六九二・二〇	二、二一・二八八	一、九〇九・三三七	三一七・七〇	八二一・六五	三、〇三二・〇四	八、一八六・〇七	二七、五一七・八一六	三、二一八・三〇	六、一一四・七〇	二、五五七・四三
				三					棟			
一部高壓實驗室												

住 宅	住 宅	住 宅	裏 門 衛 所	表 門 衛 所	舊事務所倉庫	巡查合宿所	排水ポンプ室	薬品 庫	蓄 電 池 室	鑄 物 場	鍛 冶 場	電 氣 爐 室
木造二階	木造二階	木造平家	木造平家	木造平家	鐵骨平家	木造二階	鐵骨平家	鐵骨平家	木造平家	鐵筋平家	鐵筋平家	鐵筋平家
二〇	四三	二五	三	九	三	一一八	四	一〇	三六	四六	一七	三〇
一、七一四・六九	四、九四六・〇五	四、四八四・五六	三〇〇・三七	三、三二五・七六	一、九五一・五八	一六、五〇〇・〇〇	二、六〇三・七〇	四、六一三・〇七	九、七六七・五四	一二、七〇七・五〇	五、六七一・〇〇	八、五九一・五二

倉庫	木造平家	六四	二、〇六七・五二
休憩室	木造平家	二四	三、八三一・二〇
浴室	木造平家	七	八四八・七〇
便所浴室	木造平家	八	四、六七九・二四
便所	木造平家	三	二、一九六・〇七
合計		六、一五九	一、八五九、六六〇・一四

設備明細書

區別	價額	備考
器具機械	一、七四七、六〇二・八六	
什器	一五五、八四三・四五	
圖書	三〇八、〇六九・五二	
電氣設備	三五一、四六八・六四	配線共

瓦斯水道設備	二八一、〇七二・五三	タンク、井戸共
暖房設備	二二七、七八九・三五	地階室及煙突共
構内設備	六四、一八一・〇八	
合計	三、一三六、〇二七・四三	

六 昭和八年度研究項目

〔研究事項〕 昨年度に於て研究事項は二百五十二種であつたが本年度に在ては三百二十種に増加した。此等研究事項は、各研究室の主任研究員が随意に選擇するのである、又研究の範圍に於ても何等の制限をも置いてゐない、例へば化學者が物理の研究に立入ることも、物理學者が化學の研究に没頭することも其人の自由である。併し其仕事の成績に就ては研究者は絶対の責任を負つて居る。本年度の項目は次の如くである。

研究項目 (昭和八年九月)

I 飯盛研究室

一 化學變化に伴ふ放射線の研究

昭和八年度研究項目

研究員 理學博士 飯盛里安

理化學研究所案内

- 一五 コロイドの反應に就て
- 一六 瓦斯分離の研究
- 一七 生物コロイドの現象に就て
- 一八 吸著現象の機構につきて
- 一九 瓦斯噴出機構に就て
- 二〇 電氣增幅器の研究
- 二一 砂糖の熱分解の研究
- 二二 セメント類に關する研究
- 二三 結晶の成長に關する研究
- 二四 無機鹽類の分子状態
- 二五 溶液中に於ける溶質の分子状態に就て
- 二六 液態アンモニア中に於ける金屬錯鹽

三八

研究生 工學士 桂井富之助
 囑託 理學博士 箕作新六
 囑託 理學博士 岡田要
 囑託 理學博士 富永齊
 研究員 理學博士 磯部文甫
 研究員 工學士 早川文甫
 研究員 理學博士 磯部文甫
 研究員 理學博士 鹿子島菊次
 研究生 理學士 丹野恒治
 臨時雇 理學士 吉田シゲ子
 研究員 工學士 前田勤
 助手 山根隆三
 雇手 山本健磨
 研究生 理學士 野尻貞雄
 研究員 理學博士 芝野一
 雇手 今瀬一
 雇手 山本一
 研究員 理學博士 芝野一
 囑託 理學博士 井上彦一

- 二七 一酸化炭素の接觸分解に於ける反應機構並に生成炭素の性質に就て
- 二八 明礬石類に關するX線的研究

III 石川研究室 (東北帝國大學内)

- 二九 弗素及其化合物の研究
- 三〇 非水溶液可逆電池に關する研究
- 三一 無機化合物の生成遊離エネルギー
- 三二 活性炭素による二酸化硫黄の吸著
- 三三 酸化モリブデンの解離の研究
- 三四 金屬硫化物の可逆電池の研究

IV 石田研究室

- 三五 光線の通路往復によらない光速度の比較測定
- 三六 高電場内に於けるスペクトル線の變化に就て

研究生 工學士 土屋弘
 研究生 工學士 土屋弘

研究員 理學博士 石川總雄
 助手 萩澤浩
 研究員 理學博士 石川總雄
 研究員 理學博士 石川總雄
 研究生 理學士 有井癸己雄
 研究生 理學士 渡邊元雄
 研究生 理學士 木村愿

囑託 理學博士 土井不曇
 研究員 理學博士 石田義雄
 助手 上島源一
 助手 福島政一

昭和八年度研究項目

三九

理化學研究所案内

四〇 電子電荷量の精密測定

四一 クルツクス暗界の研究

四二 言語の音響的研究

四三 非周期的現象の量子力学に就て

四四 磁氣の量子理論

V 井口研究室

四五 自動式多效冷凍機

四六 冷凍機試験法及び冷媒流量計

四七 電氣機器の冷却法

四〇

研究員 フロロツフイ 石田 義雄

助手 村井 豊太郎

研究員 フロロツフイ 石田 義雄

助手 田村 義雄

助手 武藤 俊之助

助手 武藤 俊之助

研究員 工學博士 井口 順吉

研究員 工學博士 長岡 春夫

研究員 工學博士 森田 豊治

研究員 工學博士 井口 春吉

研究員 工學博士 長岡 順吉

研究員 工學博士 三浦 正平

研究員 工學士 長岡 順吉

研究員 工學士 河村 敏夫

四八 短週期機械振動に関する研究

四九 防熱材料に関する研究

五〇 材料試験機に関する研究

五一 電磁式微動計とその應用

五二 電磁式振れ動力計

五三 電磁式振れ圖示器

五四 光學機械式振れ圖示器

五五 熱檢流計とその應用

五六 熱電對

昭和八年度研究項目

研究員 工學博士 井口 順吉

研究員 工學士 長岡 春夫

研究員 工學士 河村 敏夫

研究員 工學博士 井口 春吉

研究員 工學博士 長岡 順吉

研究員 工學士 三浦 正平

研究員 工學士 河村 敏夫

研究員 工學士 長岡 順吉

研究員 工學士 松本 英一

研究員 工學士 富川 英三

研究員 工學士 市瀬 康男

研究員 工學士 小林 藤次郎

研究員 工學士 市瀬 康男

研究員 工學士 小林 藤次郎

研究員 工學士 松本 英一

研究員 工學士 富川 英三

研究員 工學士 市瀬 康男

四一

研究員 工學士 富川 英三

研究員 工學士 市瀬 康男

研究員 工學士 小林 藤次郎

研究員 工學士 松本 英一

研究員 工學士 富川 英三

研究員 工學士 市瀬 康男

研究員 工學士 小林 藤次郎

研究員 工學士 松本 英一

研究員 工學士 富川 英三

研究員 工學士 市瀬 康男

研究員 工學士 小林 藤次郎

研究員 工學士 松本 英一

研究員 工學士 富川 英三

查 檢流計

空 特殊兵器機構

六 印字機構

六 ダイナミック・スタチック・バランシング・マシーン

六 高速度廻轉體の振動に關する研究

六 電磁式繰返應力試験機

六 機械振動防止の研究

VI 飯高研究室

七 アルミニウム輕合金

囑託 市松 本英一

囑託 小林 藤次郎

囑託 富川 康三

囑託 市松 英一

囑託 久野 成雄

囑託 久野 成雄

囑託 久野 成雄

囑託 柴田 重勝

囑託 栗田 穰

研究員 飯高 一郎

三 金屬及び合金の折れ口に就て

三 鐵鋼中の酸素定量法

三 金屬の腐蝕に就て

三 金屬の機械的性質の鑄造法に依る變化

三 強力非鐵合金

三 金屬の化學反應

三 耐蝕性輕合金

VII 西研究室

克 高壓障子の研究
特にピン障子特性及不良檢出法に就いて

合 球狀火花間隙の研究

昭和八年度研究項目

研究員 飯高 恒一

囑託 飯高 康一

囑託 青木 康一

囑託 青木 康一

囑託 青木 康一

囑託 篠塚 恒一

囑託 篠塚 恒一

囑託 篠塚 恒一

囑託 篠塚 恒一

囑託 篠塚 恒一

研究員 西本 健士

研究員 西本 健士

研究員 西本 健士

研究員 西本 健士

研究員 西本 健士

研究員 西本 健士

研究員 西本 健士

研究員 西本 健士

X 本多研究室 (東北帝國大學内)

- 一〇〇 金屬及び合金の磁性
- 一〇一 特種銅合金の研究
- 一〇二 結晶體のX線的研究
- 一〇三 金屬結晶の内部より
- 一〇四 種々なる炭素鋼の高溫度に於ける電氣抵抗の變化
- 一〇五 X線吸収スペクトルの波長變化
- 一〇六 元素の寫眞乾板に對する感光作用
- 一〇七 鐵鹽のX線吸収スペクトル
- 一〇八 磁化に依る金屬及び合金の電氣抵抗の變化

XI 大河内研究室

- 一〇九 過渡現象測定用陰極線オシログラフの性質及び製作に關する研究

- | | | | |
|---------------------|-----|------|--------|
| 二〇 衝擊試験に於ける力の測定 | 助手 | 工學士 | 渡邊 俊平 |
| 二一 材料破壊に關する研究 | 助手 | 工學士 | 田口 溇三郎 |
| 二二 音と其記録に關する研究 | 研究員 | 工學博士 | 大河内 正敏 |
| 二三 旋刀工具の切味に關する研究 | 助手 | 工學士 | 渡邊 俊平 |
| 二四 金屬の磨耗に關する研究 | 助手 | 工學士 | 田口 溇三郎 |
| 二五 精密工作法に關する研究 | 研究員 | 工學博士 | 太原 彦一 |
| 二六 工具の力學 | 研究員 | 工學博士 | 大越 諄 |
| 二七 旋刀工具の大量生産方法の研究 | 研究員 | 工學博士 | 大河内 正敏 |
| 二八 プレス工作法に關する研究 | 研究員 | 工學博士 | 大越 諄 |
| 二九 鋼球の精密工作法 | 研究員 | 工學博士 | 大河内 正敏 |
| 三〇 光學的リミットゲージに關する研究 | 研究員 | 工學博士 | 本間 勇佐吉 |

- 二三 ビストン及びクランクシャフトの精密工作法
研究員 工学博士 大河内正敏
助手 工学士 福井伸二
- 二三 磨きガラスの製造法
臨時雇 工学博士 大河内正敏
研究員 理學士 齋藤精宏
- 二三 合金鑄鐵
研究員 理學士 山本洋一
- 二四 金屬及び合金の腐蝕に關する研究
研究員 理學士 山本洋一
- 二五 鹽素による鑛石の處理
助手 理學士 山本洋一
- 二六 金屬マグネシウム製造法の改良
研究員 工学博士 大河内正敏
助手 工学博士 今富祥一郎
- 二七 熔融鹽の電解に關する研究
助手 工学博士 今富祥一郎
- 二六 炭酸瓦斯工業
研究員 工学博士 大河内正敏
研究員 工学士 真田玄次郎
- 二六 化學工業機械
研究員 工学博士 大河内正敏
研究員 工学士 前田正樹
- 二〇 蒸發装置
研究員 工学博士 大河内正敏
研究員 工学士 渡邊政徳
- 二三 熱の傳達狀況に關する研究
研究員 工学博士 大河内正敏
研究員 工学士 淺田彌平

- 二三 窒化鐵の比熱に關する研究
囑託 理學博士 佐藤俊一
- 二三 窒化アルミニウムに關する研究
囑託 理學博士 星芳次郎
- 二四 耐腐蝕性特殊窒化鐵に關する研究
囑託 理學博士 星芳次郎
- 二五 窒化鐵の酸化に關する研究
囑託 理學博士 佐藤俊一
囑託 理學博士 濱田藤次郎

XII 和田研究室

- 二六 ガリウムの分離及定量
囑託 理學博士 阿藤 實
- 二七 電壓測定に關する研究
助手 理學博士 齋藤正一郎
- (A) 金屬シアン錯鹽と金屬元素との反應
- (B) 新原理による直接滴定法
- (C) 簡易な電氣滴定補置
- (D) 混合物弱酸弱鹽基等の滴定
- 二八 珪酸の定量法に就て
助手 理學博士 北島三省
- 二九 多原子分子の吸収スペクトル
助手 理學博士 加藤セチ
- 四〇 特殊鋼の分析法に就て
研究生 關野幹次郎

理化學研究所案内

五〇

- 一四 種々なる化合物の轉移點降下に就て
- 一四 或る觸媒の作用に就て
- 一五 日本標準規格の調査に要する諸研究
- 一四 化學反應に於けるミディアムの行動
- 一五 銀タリウム群の分離法に就て
- 一四 ポリアンツドに就て

XIII 片山研究室 (東京帝國大學内)

- 一四 液體の異常性に就て
- 一四 化學構造の理論的研究
- 一四 物質の多孔性に就て
- 一五 立體化學構造と分子極性ととの關係に就て

囑託 理學士 大幸 甫
 囑託 理學士 飯島俊一 郎
 研究員 理學博士 和田猪三 郎
 助手 理學博士 北島三 省
 研究員 理學博士 石井頼三 郎
 助手 理學博士 加藤セチ
 研究員 理學博士 和田猪三 郎
 助手 理學博士 北島三 省

研究員 理學博士 片山正三 夫
 研究員 理學博士 森野米三 夫
 囑託 理學博士 片山正三 夫
 囑託 理學博士 水島三一 郎
 研究員 理學博士 片山正三 夫
 囑託 理學博士 安積 宏 夫
 囑託 理學博士 水島三一 郎

- 一五 化學速度論的研究
- 一五 有機化合物の双極子能率の研究
- 一五 氣體多成分系の分子流出に就て
- 一五 液體混合物の界面遊離エネルギーに就て
- 一五 電波の異常分散の研究
- 一五 高周波に於ける電解傳導度に就て

XIV 高嶺研究室

- 一五 真空放電に於ける吸収スペクトル
- 一五 ネオン放電管の諸現象
- 一五 赤外スペクトル
- 一六 短波長の電波が物質に與ふる影響
- 一六 スペクトル線の光度變化
- 一六 金屬元素の帶狀スペクトル

研究生 理學士 小島 顯 男
 研究生 理學士 東 健 一
 囑託 理學士 安積 宏
 研究生 理學士 森野米三
 研究生 理學士 久保昌二
 研究生 理學士 原田正夫

研究員 理學博士 高嶺俊四 郎
 助手 理學博士 高嶺俊四 郎
 助手 理學博士 高嶺俊四 郎
 助手 理學博士 高嶺俊四 郎
 助手 理學博士 高嶺俊四 郎
 助手 理學博士 高嶺俊四 郎
 助手 理學博士 高嶺俊四 郎

理化學研究所案内

一三 金屬の光反射

助手 理學博士 藤岡由夫

一四 真空分光器による極端紫外部の氣體帶狀スペクトル

助手 理學博士 藤岡由夫

一五 窒素線スペクトルの超微細構造

臨時雇 理學士 杉浦賀太郎

一六 極端紫外部に於ける水素連続スペクトル

助手 理學博士 岩間達郎

一七 ミクロフォトメーターによるスペクトル線強度測定

助手 理學士 須賀太郎

一八 量子統計力學

助手 理學士 須賀太郎

一九 真空放電機構

嘱託 理學士 富山小太郎

XV 長岡研究室

一七〇 プロトン並に陽イオンと原子核との相互作用の研究

雇 研究員 理學博士 杉浦義勝

一七一 原子變換試験

雇 研究員 理學博士 町田岩次郎

一七二 電波振動器の研究

助手 理學博士 長岡半太郎

一七三 スペクトル線構造の検査

助手 理學博士 三島忠雄

一七四 鍍物の放電による著色

研究員 理學博士 長岡半太郎

一七五 高電壓スペクトルの研究

助手 理學博士 三島忠雄

一七六 電磁コイルの計算

助手 理學博士 長岡半太郎

一七七 電子の波狀構造及びこれに関する諸問題

助手 理學博士 長岡半太郎

XVI 野口研究室

一七八 一次及二次電池の研究

研究員 工學士 野口孝重

一七九 電解電極の起電力に関する研究

研究員 工學士 野口孝重

一八〇 高温度に於ける電氣絶縁物

嘱託 工學士 高橋盛一

昭和八年度研究項目

理化學研究所案内

五四

一八 雲母の電気絶縁性能に関する研究

研究員 工学士 野口孝一重

一九 電熱器の製法改良

研究員 工学士 野口孝一重

二〇 電氣的波形分析機

研究員 工学士 野口孝一重

二一 電気滲透浄水法

研究員 工学士 野口孝一重

XVII 久保田研究室

二二 自然瓦斯の利用に関する研究

研究員 理学博士 久保田勉之助

二三 水素添加反應の研究

助手 理学士 吉河清

二四 酸性氣體と有機化合物との反應の研究

助手 理学士 赤司嘉志和

二五 公孫樹葉中より抽出せらるる成分の研究

助手 理学士 古川周

二六 有機化合物の構造研究に對するラマン效果の應用

研究生 理学士 花井定彦

二七 ラクチドの研究

研究生 理学士 花井定彦

二八 オレフィン鹽化物の合成に関する研究

囑託 バネエラ
クミエンス
イマ 龜澤精一郎

二九 アルカリ熔融による複素環式體の生成に関する研究(其一)

助手 理学博士 山中龍雄

三〇 二糖類合成に関する研究

研究生 理学博士 星野孝平

三一 2-Methen 化合物の合成と其性質に関する研究

研究生 理学博士 久保田勉之助

三二 アルカリ熔融による複素環式體の生成に関する研究(其二)

研究生 理学博士 久保田勉之助

三三 接觸還元による活性アルコール生成の試み

研究生 理学博士 久保田直實

XVIII 眞島(利)研究室 (一部は大阪帝國大學内及び東北帝國大學内)

三四 特種有機化合物と其生理作用との關係

研究員 理学博士 眞島利介

三五 特種色素に関する研究

研究員 理学博士 眞島利介

三六 建築染料に関する研究

研究員 理学博士 眞島利介

三七 蟾蜍の有毒成分の化學的研究

研究員 理学博士 小竹無二雄

昭和八年度研究項目

五五

理化學研究所案内

二四 火災に關する研究

二三 分子物理學

二四 火花放電に關する研究

二四 燃燒現象の物理的研究

XXII

喜多研究室

(京都帝國大學内)

二五 硬化油に關する研究

二五 油脂化學に關する研究

二五 石油殊に其合成及びクラッキングに就て

二六 可逆性物質に關する研究

(イ) ヴィスコース其他纖維素製品

研究員 理學博士 寺田 寅彦

研究員 理學士 芝 龜吉

研究員 理學士 田 幸彦 太郎

研究員 理學士 金 原 壽 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

研究員 工學士 馬 紀 喜 哲 郎

(ロ) 天然絹絲の再生

二五 高級分子化合物の物理化學的特に其X線的研究

二五 有機コロイドの透電的研究

二五 コロイドの粘度に關する研究

XXIII

木村研究室

(京都帝國大學内)

二五 或物質の蒸氣と其固體の吸収スペクトル

昭和八年度研究項目

研究員 理學博士 木村 正 清 路

研究員 工學博士 中 島 一 郎

研究員 工學博士 谷 口 政 勝 六 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

研究員 工學博士 淵 野 田 桂 一 郎

理化學研究所案内

二六 半導體の電氣的性質及其應用

二六 高壓磁石發電機の改良

二七 磁氣制御二極真空管の研究

二七 絶縁材料の熱變化

二七 絶縁破壊電壓の統計的研究

二七 電磁型及靜電型サイクログラフ

二七 電解蓄電器の研究

XXVI

鈴木(庸)研究室

二五 臭化銀粒子表面に於ける光化學的變化

六四

研究員 工學士 齋藤 象二

研究員 工學士 齋藤 象二

研究員 工學士 瀬藤 象二

研究員 工學士 赤平 武雄

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 赤平 武雄

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

研究員 工學士 磯部 利一

昭和八年度研究項目

二六 難熔融物質の研究

二六 高壓電氣爐の研究

二六 アゾ色素應用に關する研究

二六 赤外線寫眞

二六 感光性色素の寫眞化學的研究

二六 芳香屬硫黃化合物に就て

二六 明礬石碎解法

二六 無機化合物のメチルアルコール中に於ける化學

二六 膠質に關する研究

二六 寫眞材料の感光度測定法の研究

二六 應用光化學に關する事項

六五

研究員 理學博士 山部 俊正

研究員 理學博士 山部 俊正

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

研究員 理學博士 櫻井 季雄

理化學研究所案内
二七 有機セレン化合物の研究

六六 工學士 淺田隆次郎

XXVII 鈴木(梅)研究室

- 二八 榮養に關する研究
- 二九 新清酒の製造
- 三〇 醱酵生産物に就て
- 三一 醸造物の香氣研究
- 三二 高粱酒の研究
- 三三 炭化水素の接觸酸化に關する研究
- 三四 醬油の油中の成分
- 三五 病原菌による植物被害組織の化學的研究

研究員 農學博士 鈴木梅太郎
 研究員 農學博士 橋本鍋太郎
 研究員 農學博士 鈴木梅太郎
 研究員 農學博士 加藤正二
 研究員 農學博士 淺川四郎
 研究員 農學博士 大嶽六郎
 研究員 農學博士 東恒人
 研究員 農學士 庄司謙次郎
 研究員 農學士 吉村信三
 技師 農學士 下瀨林太
 技師 農學士 青山伊佐男
 技師 農學士 島本鶴造
 技師 農學士 三木恭平
 技師 農學士 坂田貞治郎
 技師 農學士 三木恭平

- 二九 ビオステリンの研究
- 三〇 ヴィタミンAの化學的性質に關する研究
- 三一 肝油の不飽和物に就て
- 三二 脂肪及リポイドに關する研究
- 三三 油脂類の榮養試験
- 三四 無脂肪飼料による榮養試験
- 三五 ヴィタミンD並にステリン類に關する研究
- 三六 白米のリゾシチンの研究
- 三七 動物癌腫に關する研究
- 三八 肝臟の成分に就て
- 三九 糖類の榮養試験
- 四〇 ヴィタミンCの研究

技師 農學士 中宮次郎
 技師 農學士 山本嚴夫
 技師 農學士 濱野貞行
 技師 農學士 川上行藏
 技師 農學士 鈴木文助
 技師 農學士 井上吉之
 技師 農學士 樺島祝
 技師 農學士 佐橋佳一
 技師 農學士 丹下ウメ
 技師 農學士 鷺見瑞穂
 技師 農學士 岩田元兄
 技師 農學士 中原和郎
 技師 農學士 中山英一
 技師 農學士 犬飼文和
 技師 農學士 松岡登
 技師 農學士 丸山捨吉

理化學研究所案内

- 三八 醋酸の利用工業
- 三九 蛋白質分解物の栄養試験
- 四〇 調味成分に関する研究
- 四一 米胚芽の成分に就て
- 四二 緑茶の成分に就て
- 四三 製粉に関する研究
- 四四 臺灣産植物の化學成分
- 四五 天然絹絲の再製に就て
- 四六 デリス根の成分及利用法
- 四七 樟腦及樟腦油に関する研究
- 四八 有機物の微量分析法
- 四九 アスファルトに関する研究
- 五〇 鯨の利用

六八

- 囑託 農學士 渡邊 俊雄
- 研究者 農學士 前田 司郎
- 研究者 マスター 徳山 總太郎
- 研究者 理學士 金 其 瑕
- 研究者 農學博士 辻村 みちよ
- 研究者 農學士 市場 彰芳
- 研究者 農學博士 山本 亮
- 研究者 農學士 山賀 益三
- 研究者 農學博士 武居 三吉
- 囑託 農學士 中深 清雄
- 囑託 農學士 大堀 俊雄
- 研究者 農學博士 佐橋 佳一
- 研究者 農學士 武内 邦次
- 研究者 農學士 伊木 常安
- 研究者 農學士 田中 捷夫
- 研究者 農學士 舟橋 三郎
- 研究者 和 田 俊之
- 囑託 農學士 大關 竹三郎

七 昭和八年度 支出 豫算

收入之部

科 目	豫 算 額	前年度ニ比シ増減 △印減 〇増	備 考
政府補助金	二五〇、〇〇〇・〇〇	△	
諸 利 息	五四、七九六・〇〇	△	
基 金 利 息	四四、二四〇・〇〇	△	御下賜金百萬圓ノ四分四厘二毛四絲利
有價證券利息	九、五五六・〇〇	△	有價證券二十一萬六千圓ノ四分四厘二毛四絲利
當座預金利息	一、〇〇〇・〇〇	〇	
其ノ他ノ收入	三五一、六五四・〇〇	△	
特種研究費	三、五〇〇・〇〇	△	
特許權實施報酬等	三四四、六三二・〇〇	△	此内金一萬圓也ハ特許權實施許諾報酬金也
貸地貸家料	三、五二二・〇〇	△	構内土地建物貸賃料
合 計	六五六、四五〇・〇〇	△ 一〇、九四〇・〇〇	

昭和八年度豫算

六九

支出之部

科目	豫算額	前年度ニ比シ増減	備考
事務給費	四五、七五〇・〇〇	八〇〇・〇〇	〔事務ニ従事スル職員及雇傭人ニ對スル分〕
業務給費	二七、五〇〇・〇〇	一四〇〇・〇〇	
業給費	一八、二五〇・〇〇	六〇〇・〇〇	案内其他印刷費
雜品及消耗品費	一、四〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	
印刷費	七五〇・〇〇	一五〇・〇〇	〔研究及事務ニ従事スル職員及雇傭人貲費〕
通信費	四〇〇・〇〇	六〇〇・〇〇	
旅費	一〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	〔研究及事務ニ従事スル職員及雇傭人貲費〕
會費	七〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	
接洽費	一五〇・〇〇	六〇〇・〇〇	〔研究及事務ニ従事スル職員及雇傭人貲費〕
租稅	四、一五〇・〇〇	一五〇・〇〇	
火災保險料	一、一五〇・〇〇	一五〇・〇〇	〔木造建物及什器研究室内機械圖書什器ニ對スル保險料〕
修繕費	三、五〇〇・〇〇	一、五〇〇・〇〇	
雜費	四五〇・〇〇	二〇〇・〇〇	
研究費	五九〇、七〇〇・〇〇	一〇、八六〇・〇〇	

科目	豫算額	前年度ニ比シ増減	備考
事務給費	三九二、五〇〇・〇〇	九、二四〇・〇〇	〔研究又ハ其介助ヲナス職員ニ對スル分〕
業務給費	一九八、二〇〇・〇〇	二〇、一〇〇・〇〇	
業給費	七六、五〇〇・〇〇	一、一〇〇・〇〇	電力、電話、電燈 蒸氣及暖房用石炭費
雜品及消耗品費	一三、〇〇〇・〇〇	三、五〇〇・〇〇	
電氣費	三、五〇〇・〇〇	一、五〇〇・〇〇	研究報告書刊行費
瓦斯水道費	六、八〇〇・〇〇	九〇〇・〇〇	
印刷費	一二、五〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	研究員會及報告會等 内外國特許料及出願費 職員二名分留學費、見學旅費等
通信費	二、八〇〇・〇〇	〇	
會費	三、七〇〇・〇〇	一、七〇〇・〇〇	
特許費	二一、〇〇〇・〇〇	六、五〇〇・〇〇	
留學費	六、〇〇〇・〇〇	六、五〇〇・〇〇	
器具機械費	二九、五〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	
圖書製本費	二〇、〇〇〇・〇〇	六、〇〇〇・〇〇	
雜費	一、九〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	
建築費	一〇、〇〇〇・〇〇	〇	
豫備費	二〇、〇〇〇・〇〇	〇	
合計	六五六、四五〇・〇〇	一〇、九四〇・〇〇	

第八第十六回(昭和七年)決算報告

貸借對照表 (昭和八年三月卅一日)

一、拂込未済資金	一六四、三〇〇・〇〇	瓦斯水道設備	二八一、〇七二・五三
一、銀行預金	四、九四五・九三	煖房設備	二二七、七八九・三五
一、郵便振替貯金	四五〇・七三	構内設備	六四、一八一・〇八
一、現金	九、三八六・五二	貯藏品	四六、五六五・七五
一、受取手形	七五、〇六〇・〇八	一、假拂入金	三、六一五・三一
一、有價證券及特別預金	一、〇六一、〇二二・五〇	一、未收入	一四七、五一一・〇〇
一、地所	四三一、三一〇・八八	一、未收入賣掛金	六、九三九、八五六・二七
一、建物	一、八五九、六六〇・一四	一、製作品及材料	九七、〇五三・九四
一、設備	三、一三六、〇二七・四三	一、當年度不足金	六〇二、八五五・八四
器具	一、七四七、六〇二・八六	再計	七、六三九、七六六・〇五
什器	一、五五、八四三・四五	合	一五、二二四・三九
圖書	三〇八、〇六九・五二	一、當年度不足金	七、六五四、九九〇・四四
電氣設備	三五一、四六八・六四	合	五、九〇六、七九三・〇〇

一、預り金	一六、五〇〇・〇〇
一、固定資産減價引當	一、七〇四、二七〇・七四
一、別口引當金	二、五六〇・〇〇
一、諸準備金	二四、八六六・七〇
合計	七、六五四、九九〇・四四

事業勘定書 (自昭和七年四月卅一日至昭和八年三月卅一日)

一、利息及配當金	五五、四七三・四四	再計	六六九、〇二〇・一八
一、補助金	二五〇、〇〇〇・〇〇	一、當年度不足金	一五、二二四・三九
一、貸地貸家料	三、五八一・〇〇	合計	六八四、二四四・五七
一、研究費收入	二二、三〇〇・〇〇	一、事務	四六、八四八・四六
一、留學費收入	三、五〇〇・〇〇	一、業務	二八、二二二・〇六
一、特許發明實施	四三、一五四・二九	一、研究	一八、六二六・四〇
一、特許諸報酬等	二、七六二・五〇	一、研究	六三七、三九六・一一
一、證券買賣償還差金	八、一二七・一五	一、研究	四〇二、九四二・〇一
一、雜收	三八九、八九八・三八	一、研究	二三四、四五四・一〇
一、作業收益繰入	二七九、一二一・八〇	一、研究	六八四、二四四・五七

参考の爲め左に創立以來の事業費の收支決算額を略記する。

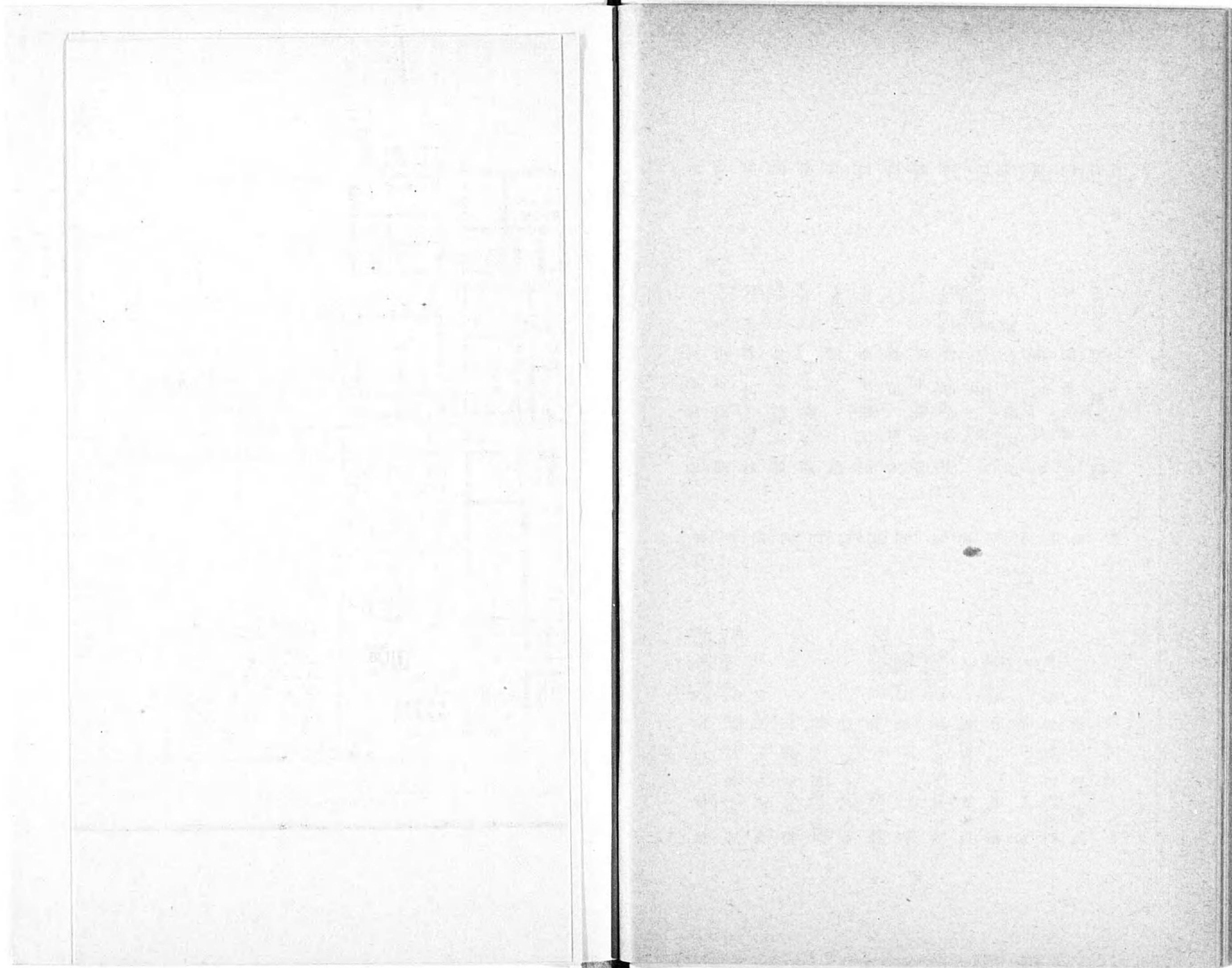
年 度	收 入	支 出	年 度	收 入	支 出
大正 六年	五三、三八四・四三	三、七五八・九	十四年	九七、三三三・四	九六、五八〇・七
七年	一六、五四〇・四	三、三五一・〇	十五年	一、一八〇、六〇・一九	一、〇四五、六五二・六
八年	二〇、六〇〇・九五	一〇九、九九七・三	昭和 二年	六九、四一〇・三	六三、七〇七・九
九年	二七五、八八〇・〇五	一六二、四三三・三	三年	八五、一六四・五	六九、八三九・九
十年	三〇五、九〇〇・五二	二四七、九四〇・五〇	四年	八七、二四九・九	七〇、九七一・〇
十一年	二七二、二三三・五三	三九、四三三・七〇	五年	五九、八六六・二	六三、四三三・九
十二年	九四三、八五七・七一	九〇〇、五七〇・二	六年	六五、〇七三・六	六四、九七三・二
十三年	八四、九四三・三	八五、六九六・六	七年	六九、〇〇〇・八	六四、二四四・五

九特許權

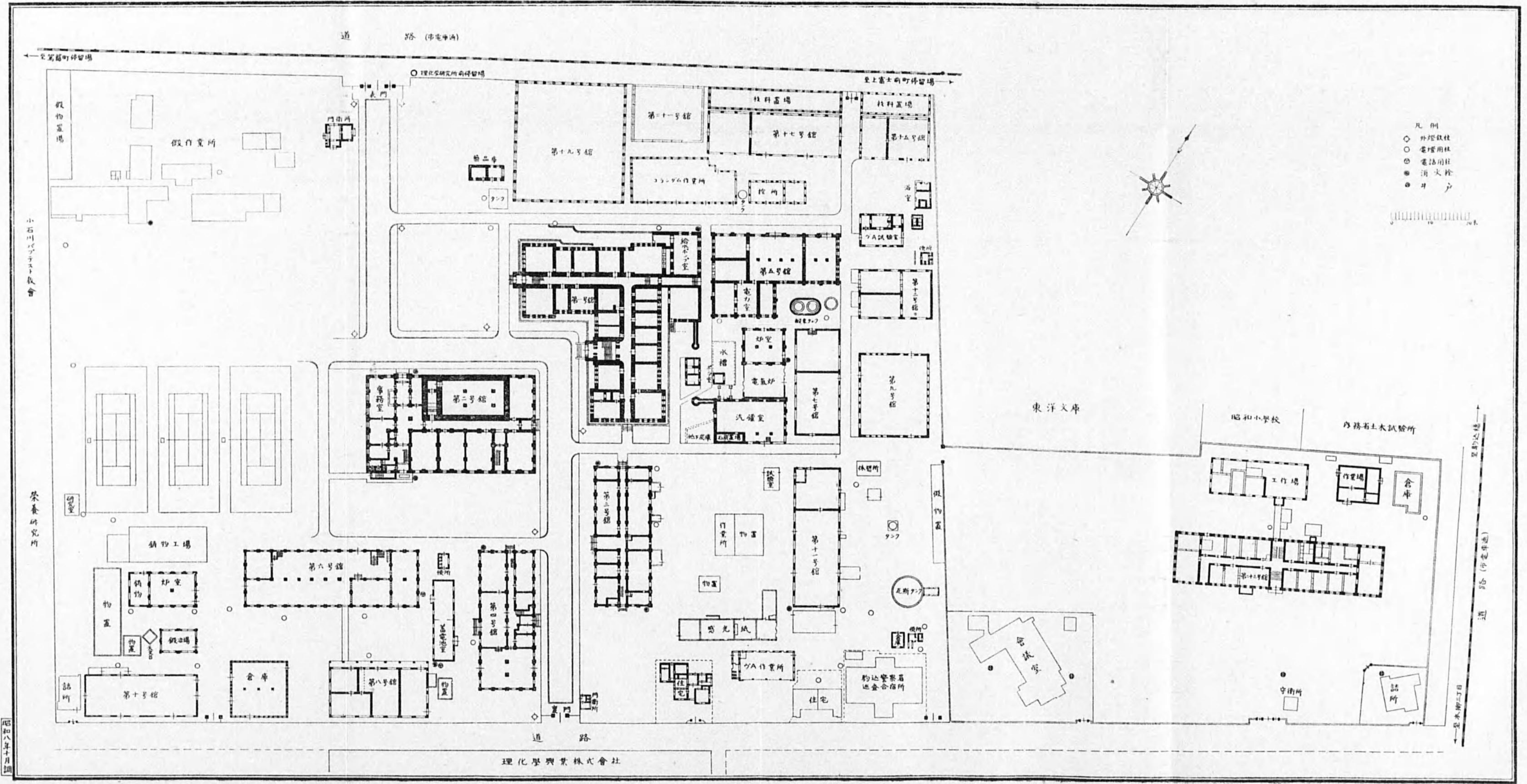
當所の所有してゐる内外國の特許權は別冊に記載せる如く昭和八年八月三十一日迄に、内國三七四件、外國一三三件、實用新案特許三九件、登録商標四七件であつて、其内已に實施せられて居るものも可成りあるが、多くは未だ實施されずにある。適當の條件では等の特許が社會に大に利用せられんことを望むものである。

役員名簿 (昭和八年八月一日現在)

總裁	伏見宮博恭王殿下	理事	青木 菊雄
副總裁	工學博士 古市 公威	同	鹽原 又策
顧問	工學博士 櫻井 鏡二	同	森村 市左衛門
理事	原 邦造	監事	岩崎 小彌太
同	大橋 新太郎	同	原 六郎
同	工學博士 大河内 正敏	同	久原 房之助
同	子爵 小野塚 喜平次	同	古河 虎之助
同	東大總長 法學博士 小野塚 喜平次	同	男爵 三井 高公
同	商工次官 吉野 信次	同	男爵 三井 高公
同	工學博士 高松 豐吉	評議員	男爵 岩崎 小彌太
同	同 內藤 久寬	同	岩井 勝次郎
同	工學博士 牧田 環	同	市來 乙彦
同	工學博士 古市 公威	同	石井 健吾
同	男爵 粟屋 謙	同	第一銀行 服部 金太郎
同	文部次官	同	



財團法人
理化學研究所建物配置圖
縮尺九百八十分之一



- 凡例
- 外燈柱
 - 燈塔柱
 - 電話用柱
 - 消火栓
 - 井

昭和八年十月調

理化學研究所



昭和八年十一月十五日印刷
昭和八年十一月二十日發行

【非賣品】

財團
理化學研究所

(電話、大塚(86) 三三三三、三三三三、三三三三、三三三三、三三三三、三三三三、三三三三、三三三三、三三三三、三三三三)

代表者 大河内正敏
東京市本郷區駒込上富士前町三十一番地
印刷者 稻垣秀實
東京帝國大學農學部農藝化學教室
印刷所 日本農藝化學會印刷部
東京帝國大學農學部內

26-5

終